

長尾小だより

第11号
文責

平成26年12月22日(月)
校長 田中 均

【2学期終業式】

今日で長かった79日間の2学期も終わります。234名の方が欠席ゼロで2学期を過ごしたことは大変素晴らしいことだと思います。

振り返ってみると、残暑で始まった2学期、運動会練習、そして運動会、校内マラソン大会、校内絵画展、各学年ごとの行事がありました。他の学校の先生方が授業を見に来られたこともありましたね。多くの行事に一生懸命取り組む中から成長というお土産がいただけます。ここにいるすべての人がそれをいただけたと感じています。

みなさんにいつもの質問をします。【笑顔】の2学期でしたか？そう思える人は手を挙げてください。1学期の時よりも増えましたか。手の上がった人は、とても素晴らしい2学期が過ごせたと言うことですね。

今年の2学期、心配したことはケガをした人が多かったことです。幸いにも大きなケガとまではいかなかった場合でも、まかり間違えば命がなくなってしまうような怖さも感じました。「自分の命は自分で守る」、このことは学校に来ているときだけでなく、いつでも、何よりも、優先されるべき事だと思えます。

明日からは、みなさんが楽しみにしている冬休みが始まります。クリスマスやお正月といった楽しい行事もあります。15日間と夏休みから比べると短いですが、年末年始の慌ただしさの中でも、第一に健康に気をつけ過ごすこと、第二にお金の使い方を考えること、第三に2学期の復習をすること、この3つを守り、楽しい冬休みを過ごしてください。交通事故やその他の事故に遭わないようにして、楽しい休みとしてください。また、是非、2015年1年間の大きな目標を立ててください。

それでは、3学期には、元気に会いましょう。

【人権教育】

12月1日(月)～10日(水)を本校では、人権週間として人権について全校・全学級で集中的に学びました。人権についての朝礼、人権の授業、道徳や学活の時間で人権に関するビデオの視聴、人権標語づくり、人権標語の発表集会、演劇教室などで学習しました。

18日(木)には人権擁護委員さんによる人権教室を開催しました。低学年では、「ごめんね、ともだち」、中学年では「4つの魔法の言葉」、高学年では「ストップ いじめ」ということでそれぞれ寸劇を交えて、人権について考える機会を与えていただきました。



【人権教室の様子】

【絵画大会】

11月25日(火)～28日(金)まで、体育館に校内絵画展で作品を掲示しました。どの学年もどの作品も一生懸命に描いたことがよく分かるものでした。1年生は「おにのおにぎり」、2年生は「さつまいもほり」、3年生は「〇〇で、はいポーズ」、4年生は「ロックソーラン」、5年生は「学校の中のお気に入りの場所」、6年生は「思い出の風景」でした。



【富士重工見学】

11月27日(木)に、5年生は社会科見学で富士重工へ行ってきました。自動車工場の見学には、ほとんどの小学校5年生が、富士重工を見学しています。はじめにホールで工場見学や工場の概要について説明を聞きます。その後、広い工場を自動車ができるまでの工程に従い見学します。プレス工場→塗装工場(ここは、小さなゴミを嫌ったり、塗装の液を吹き付けたりする



ので見学できません)→組み立て工場→最終検査工場の順で見学してきました。4000人の人が2交代で勤務していることや1台の車が完成するまでにおよそ20時間かかること、またスバルの車の歴史についても学ぶことができました。

【授業参観】



11月28日(金)に、2学期の授業参観を行いました。1年生は図工で「どうぶつさんだいすき」という題材で、親子で動物づくりを行いました。2年生も図工で「ケーキ屋さん」という題材でケーキ作りを親子で行いました。3年生は総合で「安全マップをつくろう」ということで、自分たちの班が調べたことをもとに作ったマップを発表しました。4年生は外国語と道徳の授業を公開しました。5年生は国語の授業で「あなたも作家になれる」「討論会をしよう」を公開しました。6年生は総合で修学旅行のことを発表しました。

【PTAセミナー】

11月28日(金)の授業参観の後に、15:00からPTAセミナーが開催されました。講師は、利根沼田障害者相談支援センター所長の仲丸守彦先生でした。「子どもの心を育てるコミュニケーション」という演題で、1時間半の講演をいただきました。日も落ち、だんだんと寒くなっているにもかかわらず、寒さを感じないくらい充実した講演でした。100名ほどの人に熱心に聞いていただきましたが、聞かなかった人はもったいないことをしたなあと感じました。その中で印象に残り、メモした言葉を紹介するので、講演会を想像してみてください。

人の言動は、全て入力(認知)→思考(判断)→出力(実行)であり、出力を変えたいと思うなら、入力を変えなければならない。コミュニケーションで難しいのは気持ちを伝えること。心を育てるには、自己評価を高め、いかにそれを下げないかが大切。モチベーションを高めるには、褒める、25%できたら褒める。決めつけないことが大事。して欲しいことを言う。決めつけない。時間(早くしなさいではなく、いつまでにして欲しいかを言う)や叱り方(小さい声でゆっくり叱る。諭す。説いて聞かせる。)配慮。刷り込み洗脳できる。(否定的なことを言えば否定的な考えが育つ。間違っただけじゃない。やっぱりだめね。赤ちゃんみたい。)肯定的に言い換える。(ダメ→こうしたらどう。頑張れ→頑張ったね。)自分の自信(自己肯定感があれば頑張れる。自信があると困難に立ち向かえる。再チャレンジできる意欲。頑張れる子→自己評価が高い。)考え方を考える。(こうしなさい→どうしたらいいかね。何をせよ→何からするの。)入力するときは(・具体的に・簡潔に・一度にたくさんを言わない・視覚的にetc)見通しを持たせる。(・いつ・どこで・何を・どのように・どれくらい・どうなったら終わりか・終わったなら何があるのか) 親・先生が見本(子どもへのかかわり方)を示す。



最後に先生が、次のようにまとめてくれました。子どもの言動を変えたいならば、子どもに入る入力(親の言動を)変えなければならない。コミュニケーションでは気持ちを伝えること、気持ちの行き来が大切であること。心を育てるには自己評価を高めなければならないこと。を教えていただきました。すべてを行うことは誰もできませんが、実行できそうな一つを決め、それをやり通すことが子どもがよりよく成長させる近道だと感じました。

【仲丸先生講演会】